

### 3. 定点把握対象感染症患者報告状況（週報）

#### （1）過去5年間の報告状況

| 疾患名            | 2018 年<br>(平成 30 年) | 2019 年<br>(令和元年) | 2020 年<br>(令和 2 年) | 2021 年<br>(令和 3 年) | 2022 年<br>(令和 4 年) |
|----------------|---------------------|------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| インフルエンザ        | 12,318              | 10,024           | 3,095              | 4                  | 42                 |
| RS ウイルス感染症     | 1,684               | 1,862            | 140                | 2,912              | 1,214              |
| 咽頭結膜熱          | 466                 | 563              | 222                | 242                | 205                |
| A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 1,729               | 772              | 475                | 254                | 109                |
| 感染性胃腸炎         | 6,511               | 6,192            | 3,365              | 4,397              | 4,006              |
| 水痘             | 259                 | 262              | 192                | 128                | 70                 |
| 手足口病           | 1,212               | 2,086            | 71                 | 678                | 410                |
| 伝染性紅斑          | 200                 | 666              | 115                | 6                  | 4                  |
| 突発性発しん         | 848                 | 470              | 514                | 502                | 399                |
| ヘルパンギーナ        | 817                 | 486              | 170                | 411                | 66                 |
| 流行性耳下腺炎        | 110                 | 56               | 50                 | 30                 | 19                 |
| 急性出血性結膜炎       | —                   | 3                | —                  | —                  | —                  |
| 流行性角結膜炎        | 58                  | 117              | 29                 | 21                 | 11                 |
| 細菌性髄膜炎         | 4                   | 3                | 3                  | 1                  | 4                  |
| 無菌性髄膜炎         | 3                   | 7                | 4                  | 3                  | 6                  |
| マイコプラズマ肺炎      | 26                  | 131              | 43                 | 7                  | 2                  |
| クラミジア肺炎        | 1                   | 1                | —                  | —                  | —                  |
| 感染性胃腸炎（ロタウイルス） | 2                   | 8                | 1                  | 1                  | —                  |

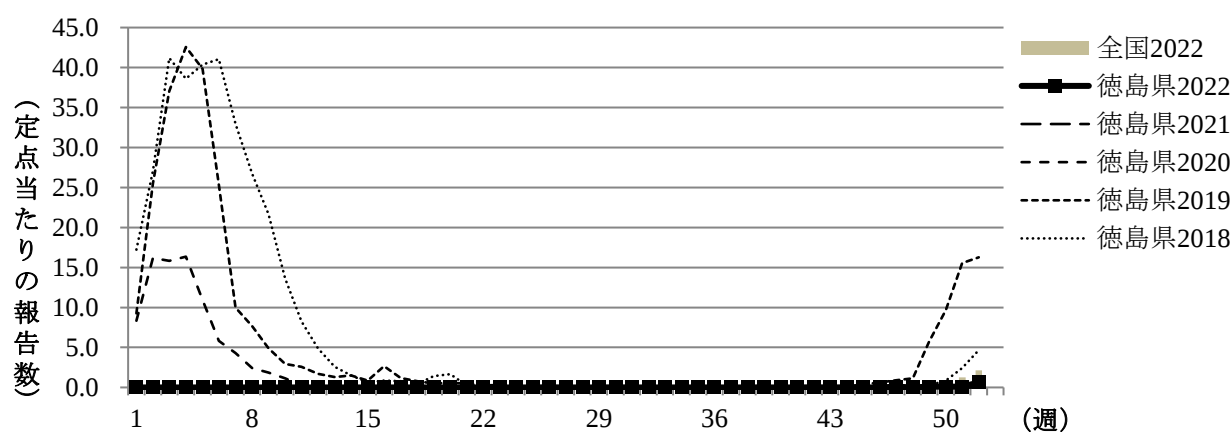
## (2) 各疾病の報告状況

### ① インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症を除く）

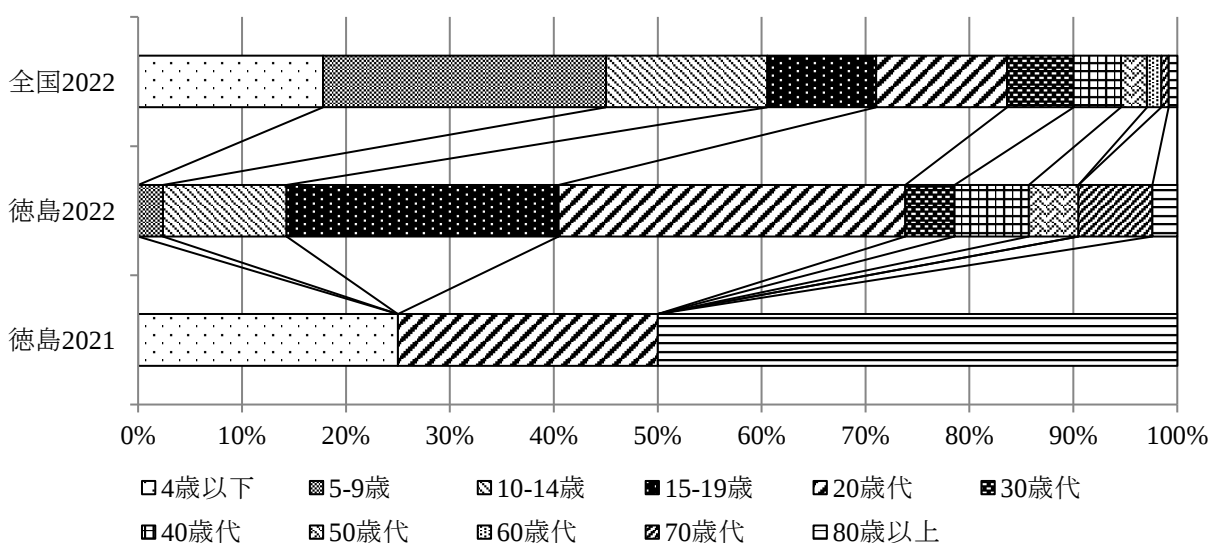
年間報告数は42件であり、2020年は3,095件、2021年は4件と、新型コロナウイルス感染症の発生及び流行以降、インフルエンザの患者数は大きく減少した。年齢層別報告数では、4歳以下0%、5～9歳2.38%、10～14歳11.90%、15～19歳26.20%、20歳以上59.52%であり、20歳以上の割合が高かった。

2020年、2021年に引き続き本年も流行開始の目安とされる1.0件／定点を超えることなく、低水準(0.00～0.62件／定点)のまま越年した。

【インフルエンザの週別患者報告状況】



【インフルエンザの年齢層別報告数】

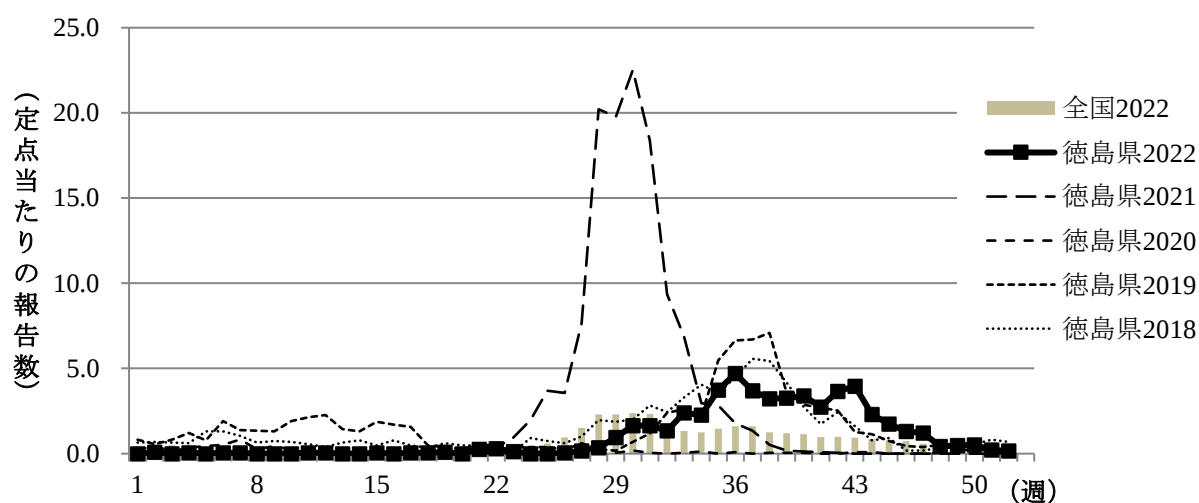


## ② RS ウイルス感染症

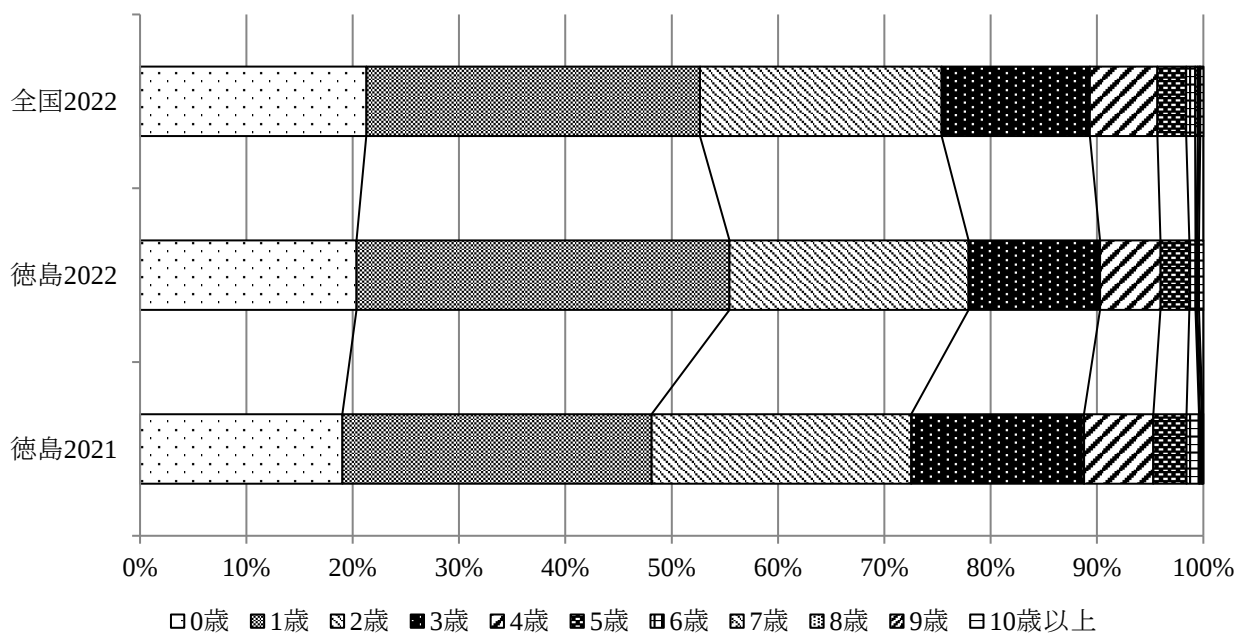
年間報告数は1,214件と、流行が見られた前年（2,912件）より大きく減少した。本疾患は2017年以降、夏から秋にかけて流行しており、本年も第29週から増加し、第36週にピーク（4.70件／定点）を迎えた。第33～47週で全国平均を上回り、この間の報告数は年間の約83%を占めた。

本疾患は、2歳までの乳幼児からの報告が多く、本年の年齢層別報告数は、0歳20.35%、1歳35.09%、2歳22.49%、3歳12.35%、4歳以上9.72%であった。

【RS ウイルス感染症の週別患者報告状況】



【RS ウイルス感染症の年齢層別報告数】



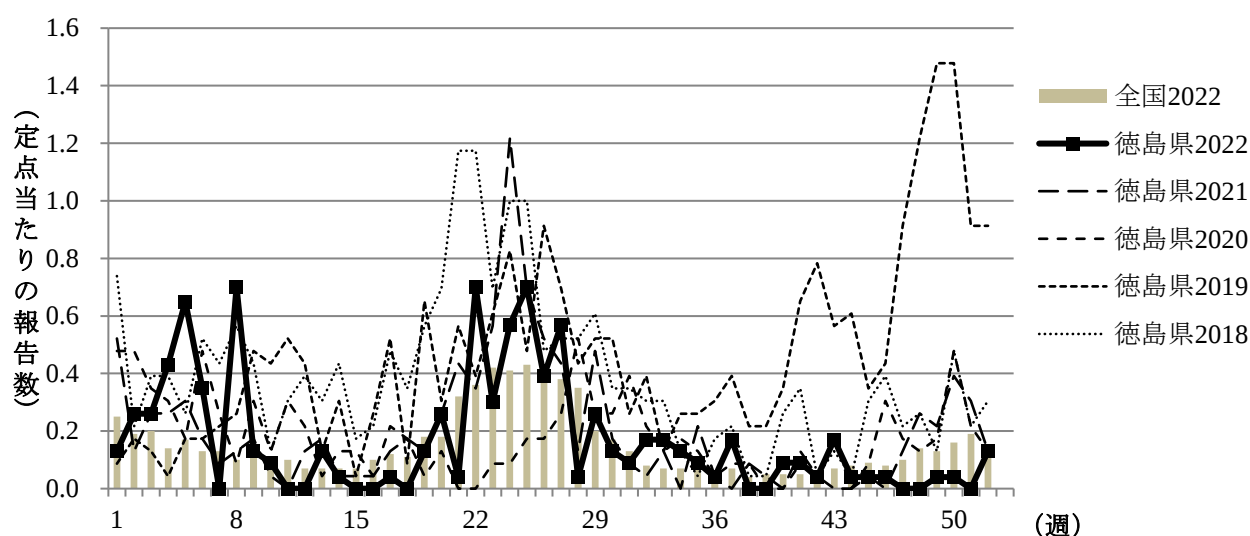
### ③ 咽頭結膜熱

年間報告数は 205 件と、前年（242 件）より減少した。本疾患の流行パターンは、6 月ごろから増加し始め、7～8 月にピークを示した後、冬季にもピークが見られる。

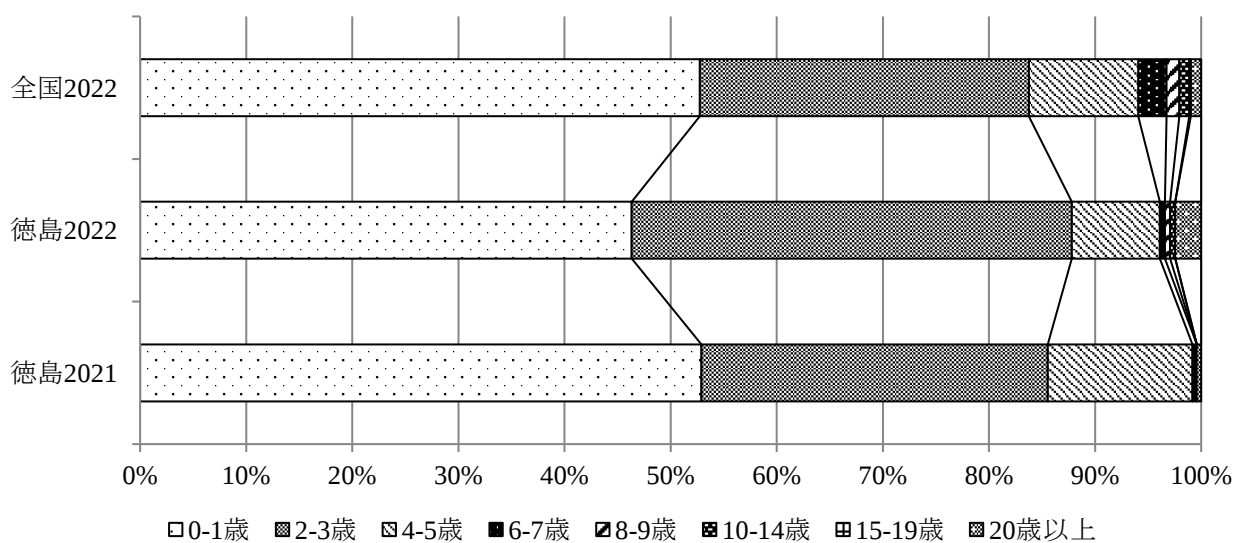
本年は 1～2 月と 5～7 月に増加傾向が見られ、第 8 週、第 22 週、第 25 週にピーク（0.70 件／定点）を示した。

年齢層別報告数は、0～1 歳 46.34%、2～3 歳 41.46%、4～5 歳 8.29%、6～7 歳 0.50%、8 歳以上 3.41% であり、5 歳以下が約 96%を占めた。

【咽頭結膜熱の週別患者報告状況】



【咽頭結膜熱の年齢層別報告数】

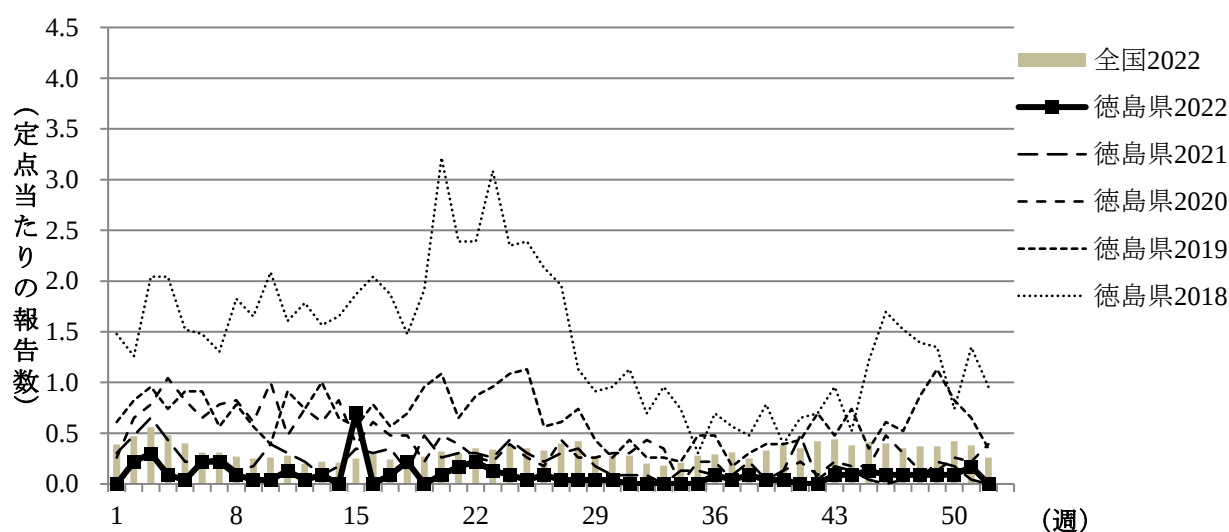


#### ④ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

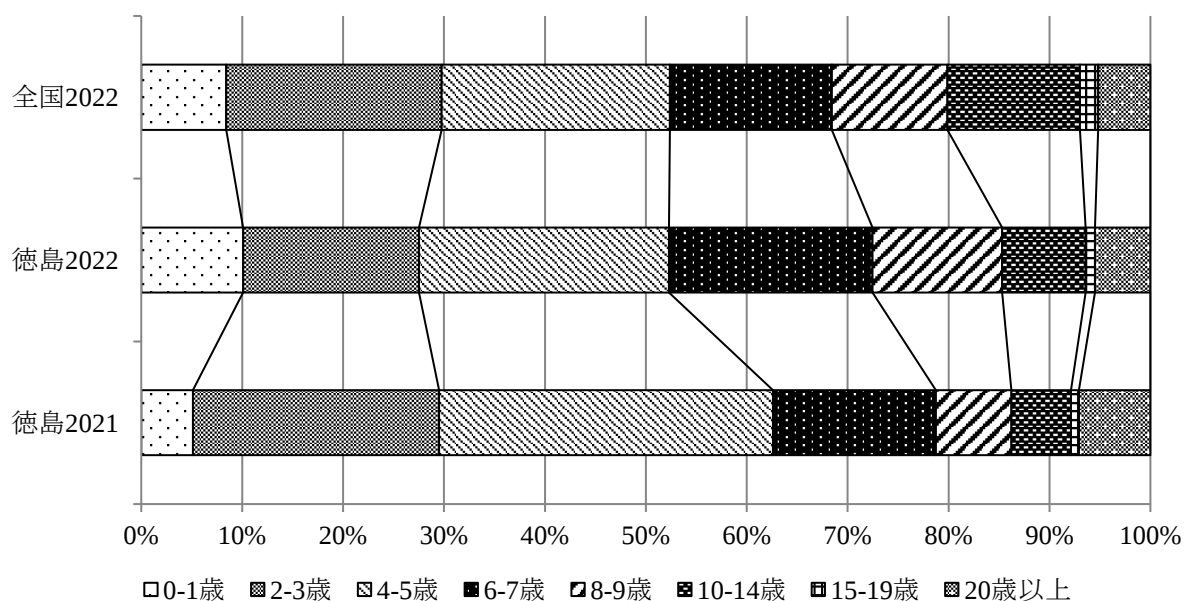
年間報告数は109件と、前年（254件）より減少し、調査開始以降、最も少ない報告数であった。本疾患は、冬季及び春から初夏にかけて増加するとされるが、新型コロナウイルス感染症の流行以降、本年も、年間を通じて報告数の低い状態（0.70件／定点以下）が続いた。

年齢層別報告数は、0～1歳 10.10%、2～3歳 17.43%、4～5歳 24.77%、6～7歳 20.18%、8～9歳 12.84%、10～14歳 8.26%、15歳以上 6.42%と、2～7歳の割合が高かった。

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の週別患者報告状況】



【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年齢層別報告数】

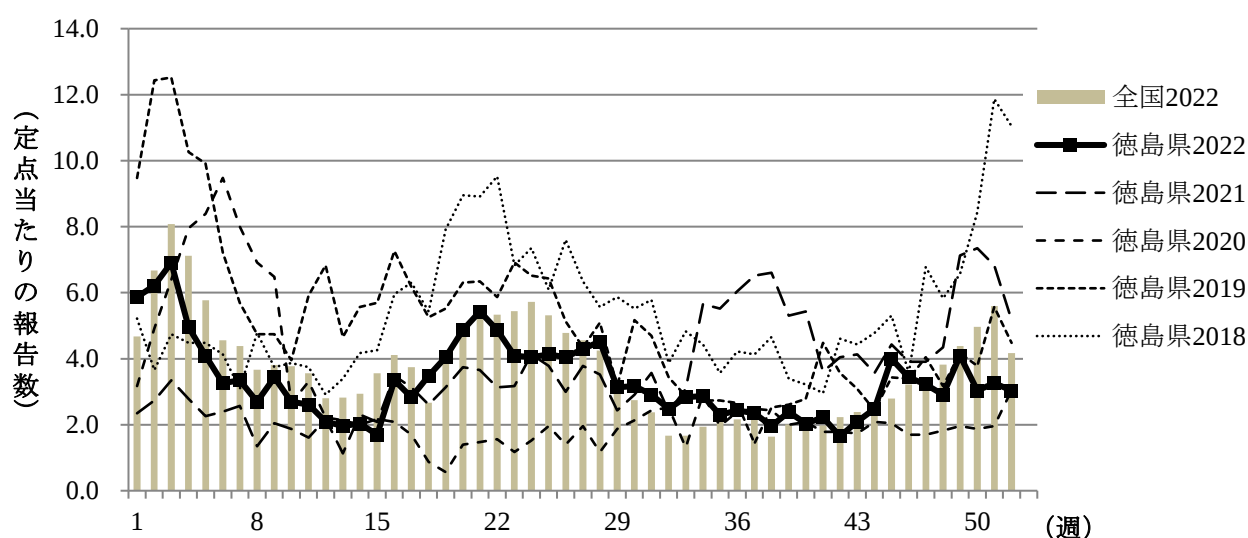


## ⑤ 感染性胃腸炎

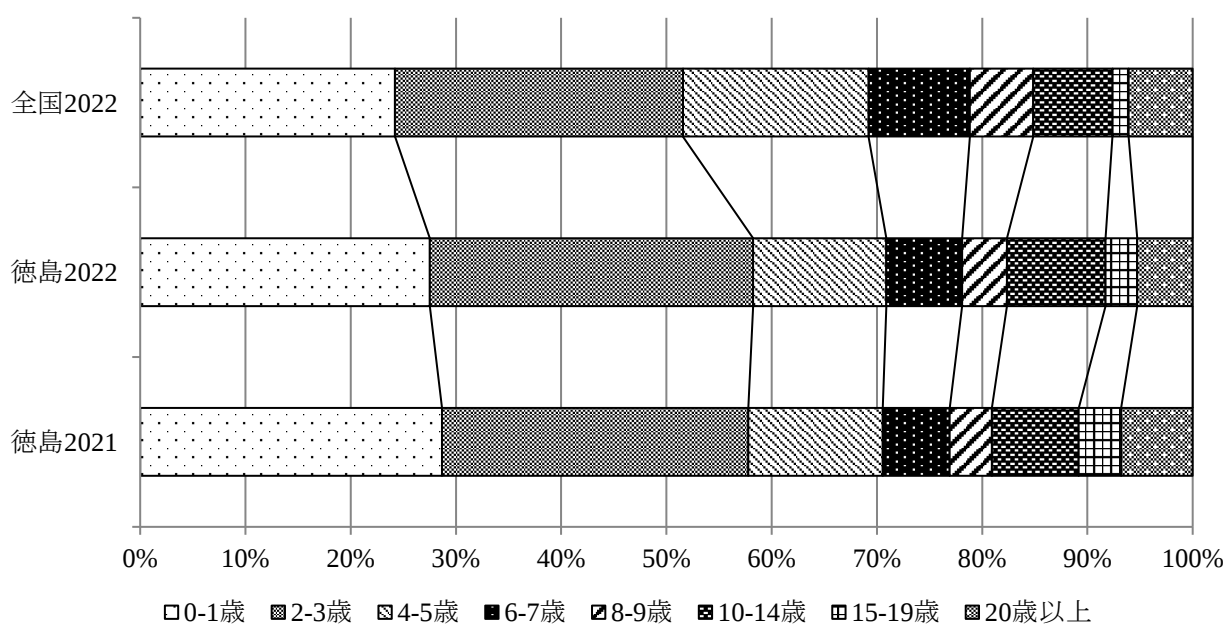
年間報告数は4,006件と、前年（4,397件）より減少した。本疾患の流行パターンは、初冬から増加し12～1月頃に一度ピークが見られた後、春にもう一度なだらかなピークができ、その後初夏まで続くことが多い。本年の前期流行は、前年から引き続いて第1週から増加傾向を示し、第3週でピーク（6.91／定点）が見られ、5月中旬から再び増加傾向を示した。例年は11月下旬～12月にピークが見られるが、今年は見られなかった。

年齢層別報告数は、0～1歳 27.53%、2～3歳 30.70%、4～5歳 12.66%、6～7歳 7.19%、8～9歳 4.27%、10～14歳 9.36%、15歳以上 8.29%と5歳以下の乳幼児が全体の約71%を占めた。

【感染性胃腸炎の週別患者報告状況】



【感染性胃腸炎の年齢層別報告数】

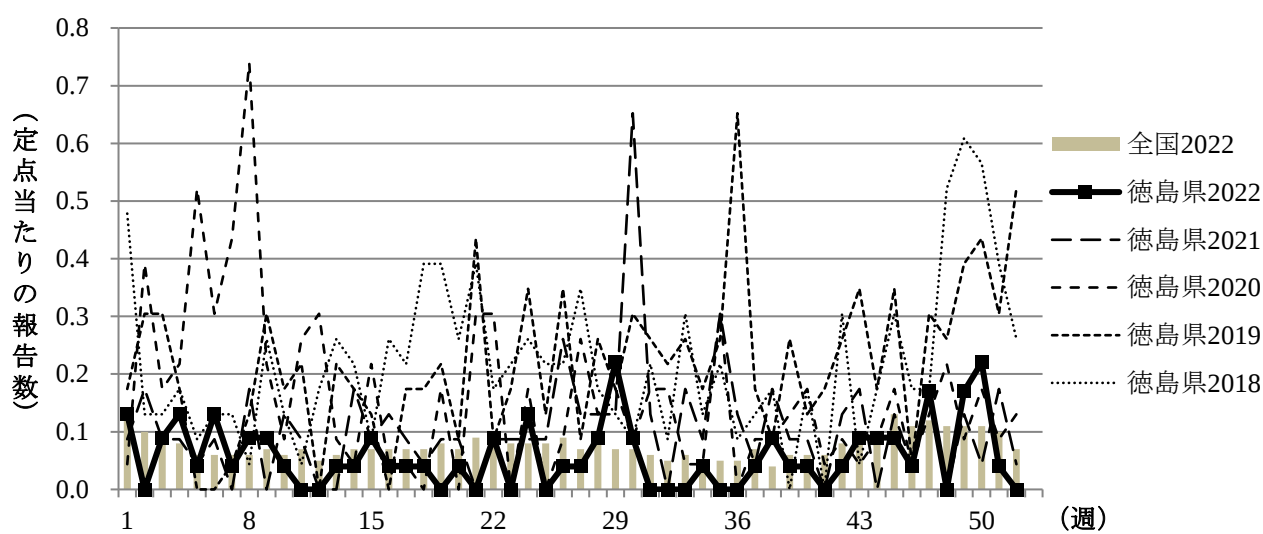


## ⑥ 水痘

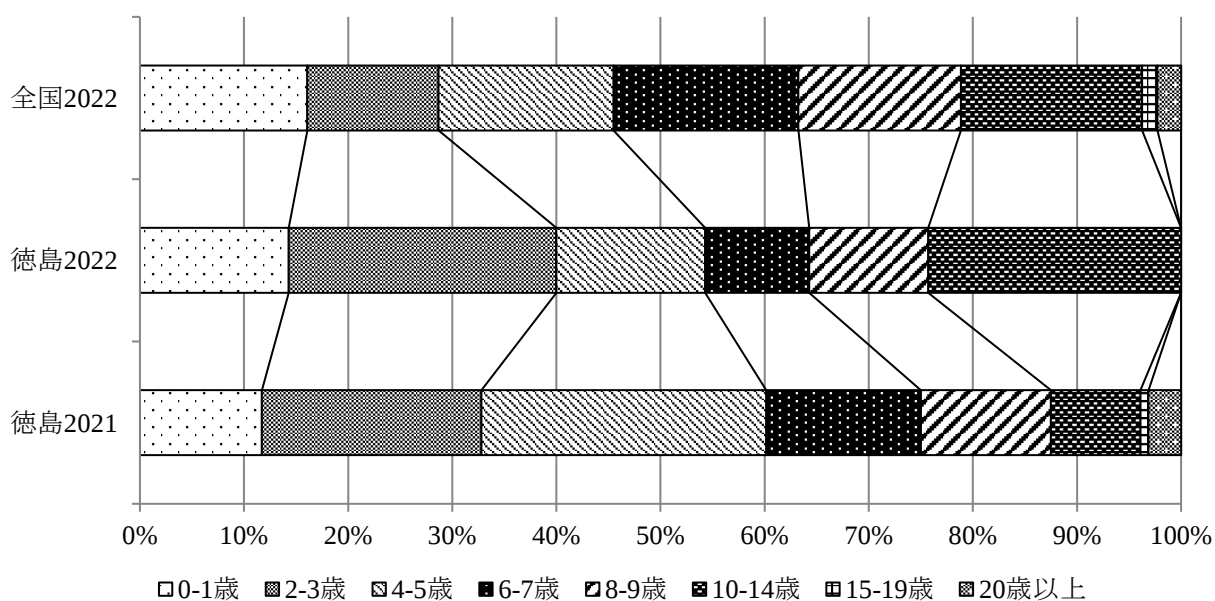
年間報告数は70件と、前年(128件)より減少し、過去5年間で最も少ない報告数であった。本疾患は年間を通して発生するが、主に冬から春にかけて流行するとされる。本年は大きなピークは見られず、年間を通じて低水準(0.00～0.22件/定点)のまま推移した。

年齢層別報告数は、0～1歳 14.29%、2～3歳 25.71%、4～5歳 14.29%、6～7歳 10.00%、8～9歳 11.43%、10歳以上 24.28%と10歳未満が全体の約76%を占めた。

【水痘の週別患者報告状況】



【水痘の年齢層別報告数】

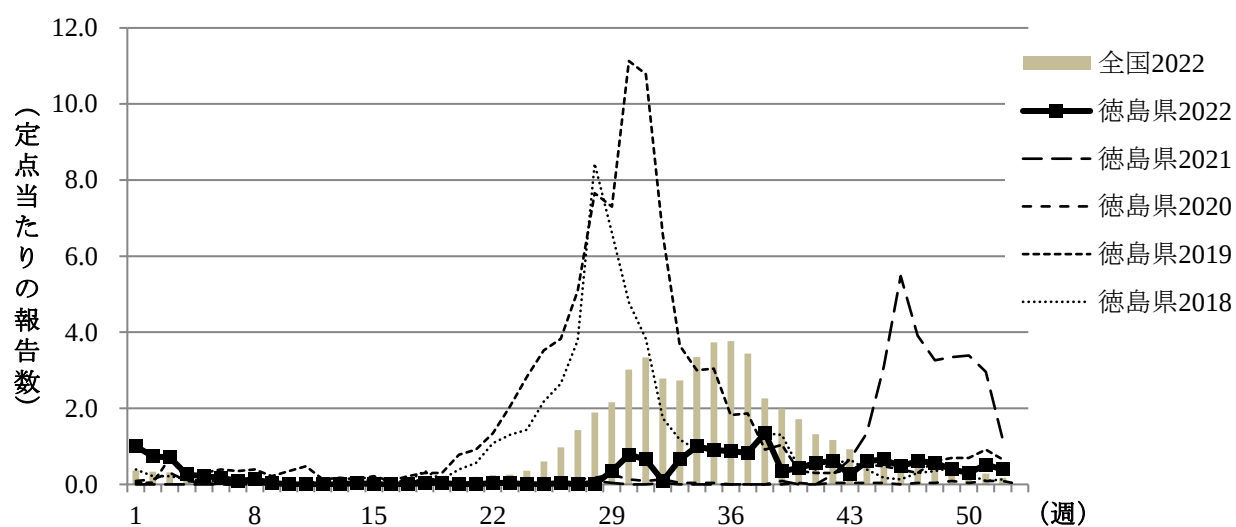


⑦ 手足口病

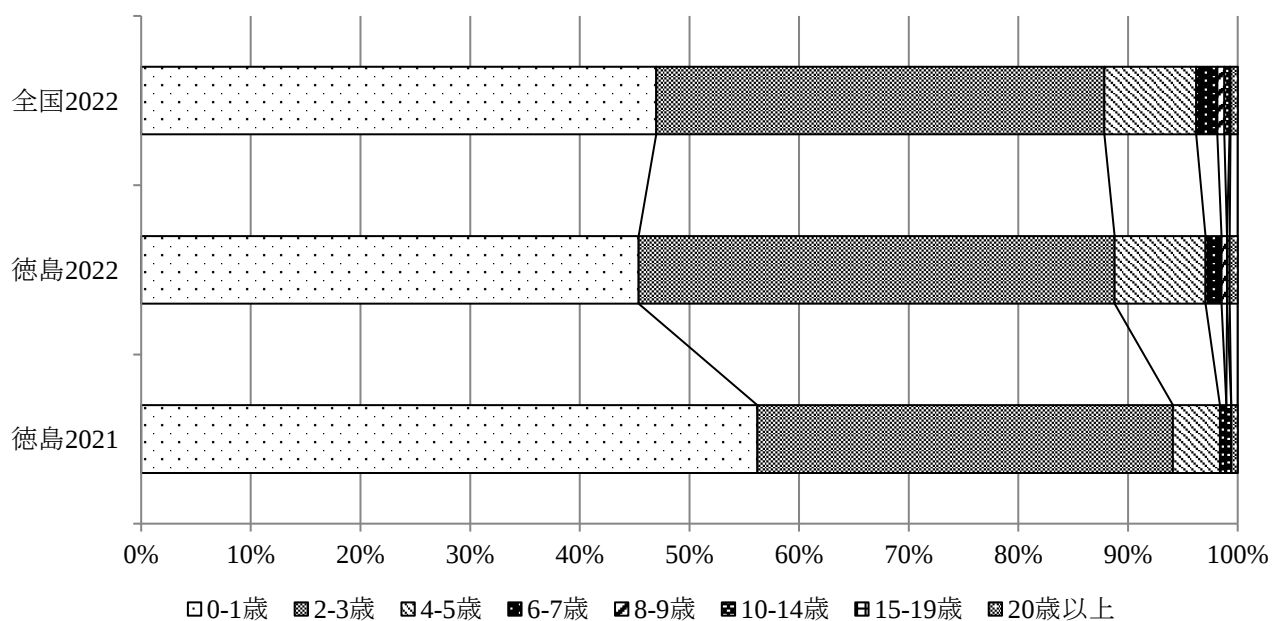
年間報告数は410件と、前年（678件）より減少した。本疾患は夏期に流行する代表的な感染症である。本年最も報告数が多かったのは第38週（1.35/定点）で、年間を通じて低水準のまま推移し、大きなピークはなかった。

年齢層別報告数は、0～1歳45.37%、2～3歳43.42%、4～5歳8.29%、6～7歳1.46%、8歳以上1.46%であり、5歳以下が全体の約97%を占めた。

【手足口病の週別患者報告状況】



【手足口病の年齢層別報告数】

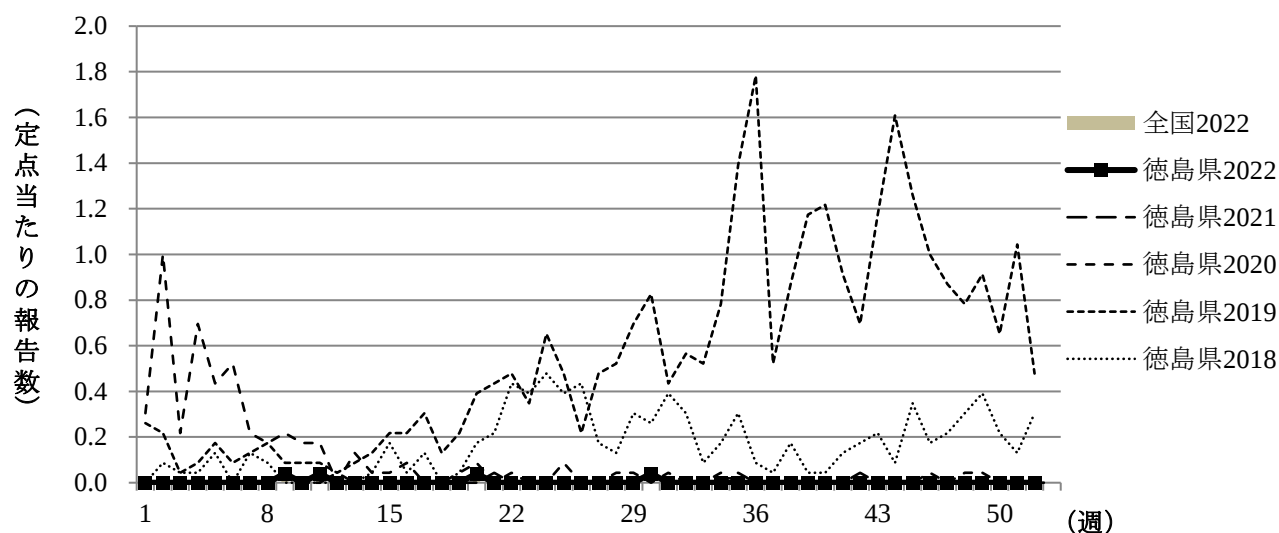


# ⑧ 伝染性紅斑

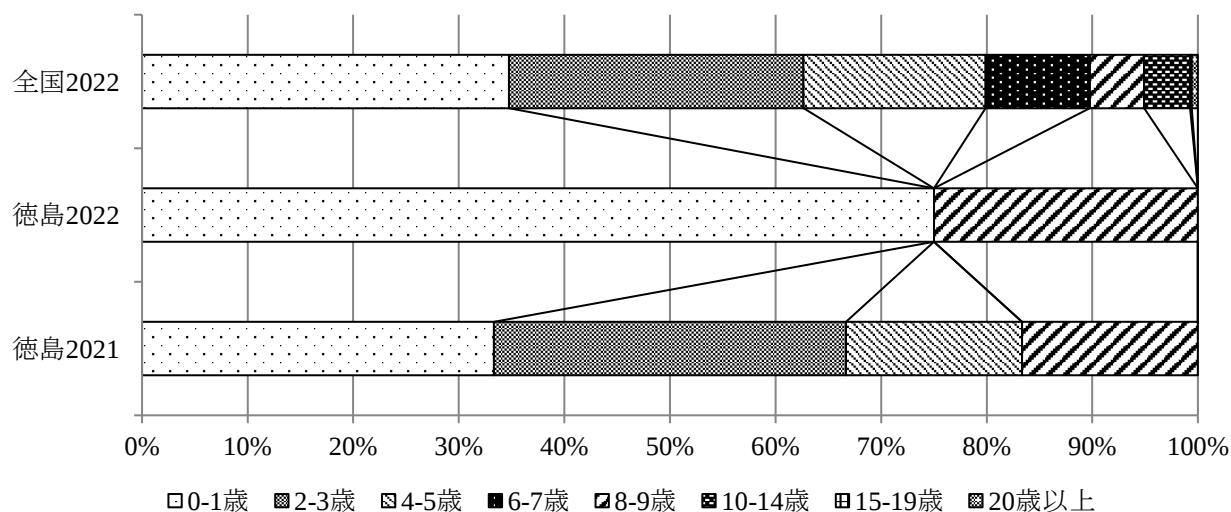
年間報告数は4件と、前年（6件）に引き続き減少し、調査開始以降、最も少なかった。本年は、年間を通じて低値（0.00～0.04件／定点）で推移した。

年齢層別報告数は、0～1歳75%、2～3歳0%、4～5歳0%、8～9歳25%と、1歳以下の乳幼児の割合が高かった。

【伝染性紅斑の週別患者報告状況】



【伝染性紅斑の年齢層別報告数】

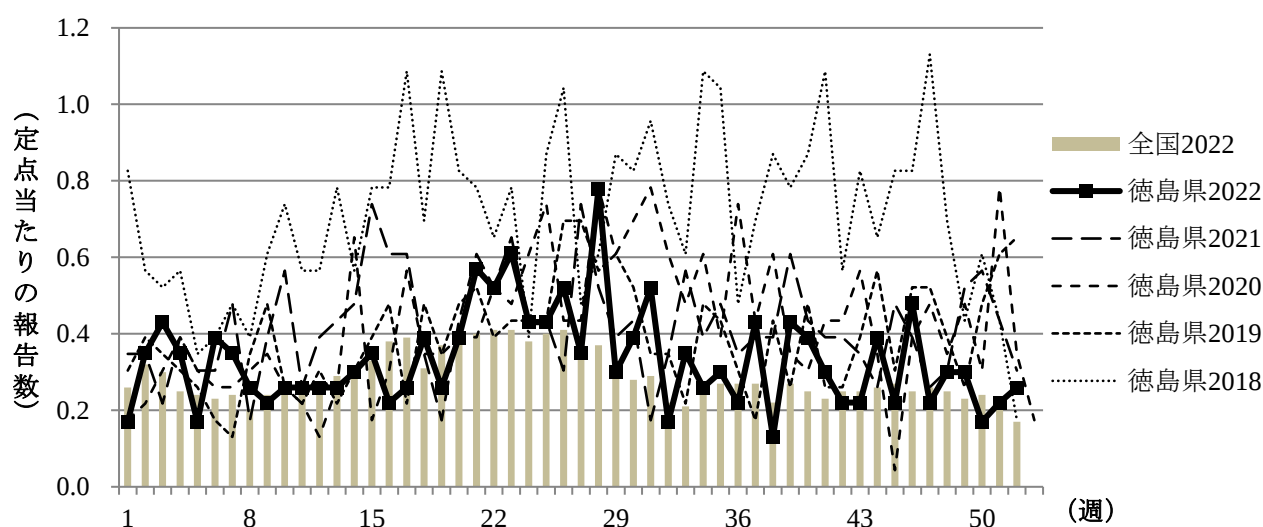


# ⑨ 突発性発しん

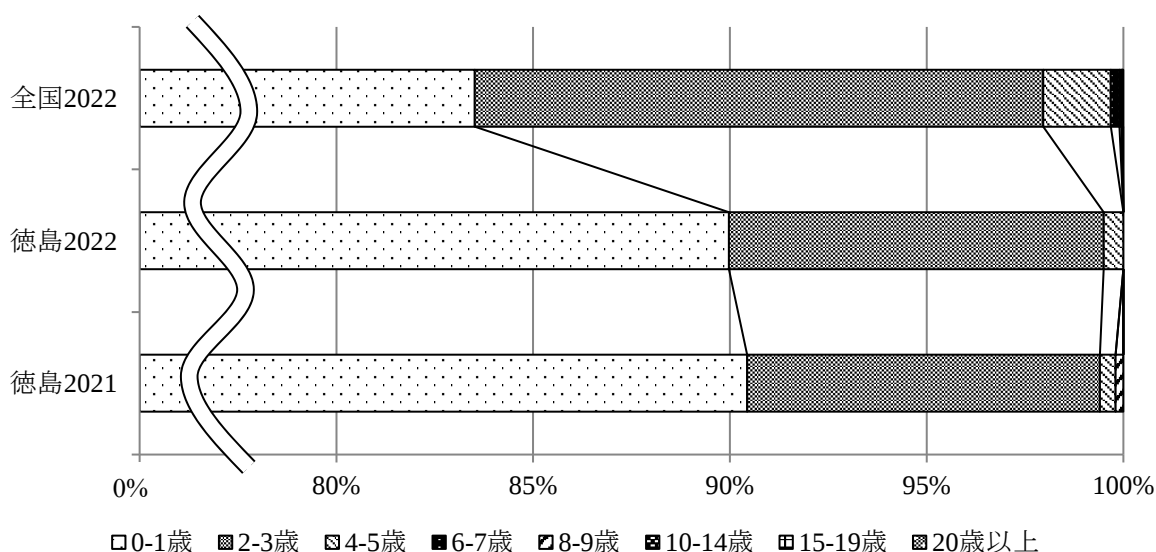
年間報告数は399件と、前年（502件）より減少し、調査開始以降、最も少なかった。本疾患は、季節性も年次推移も認められず、年間を通じてほぼ一定の範囲内で推移するとされる。本年もピークは示さず、大きな季節的変動も見られないまま、一定の範囲内（0.13～0.78件／定点）で推移した。

本疾患は、6カ月～1歳代の小児に好発し、ほとんどの子どもが3歳までに感染するといわれている。年齢層別報告数は0～1歳 89.98%、2～3歳 9.52%、4～5歳 0.50%、6歳以上 0%と、1歳以下が最も多く、3歳以下が大半を占めた。

【突発性発しんの週別患者報告状況】



【突発性発しんの年齢層別報告数】

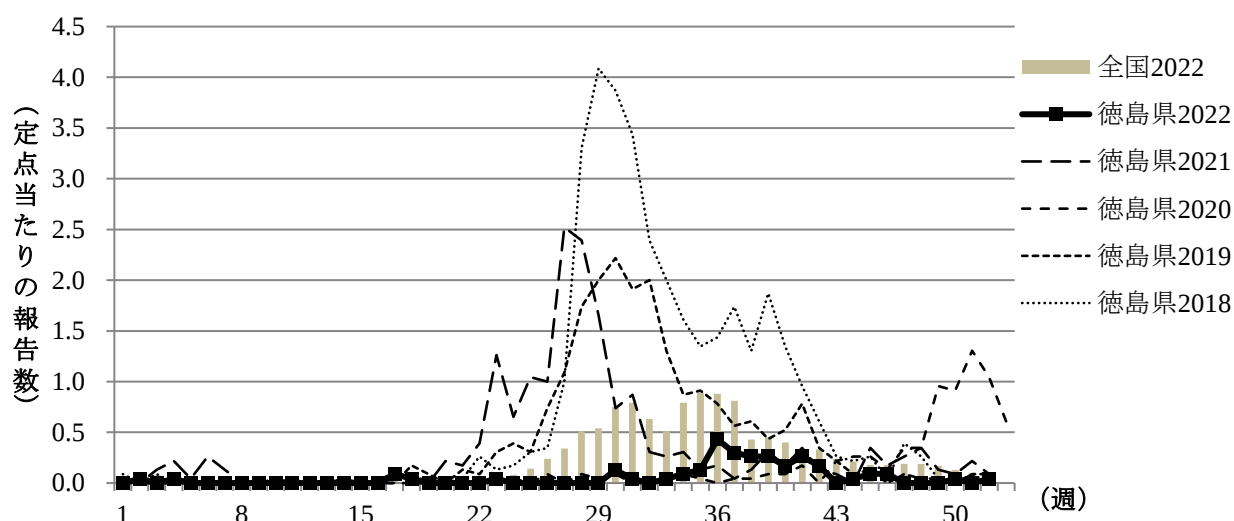


# ⑩ ヘルパンギーナ

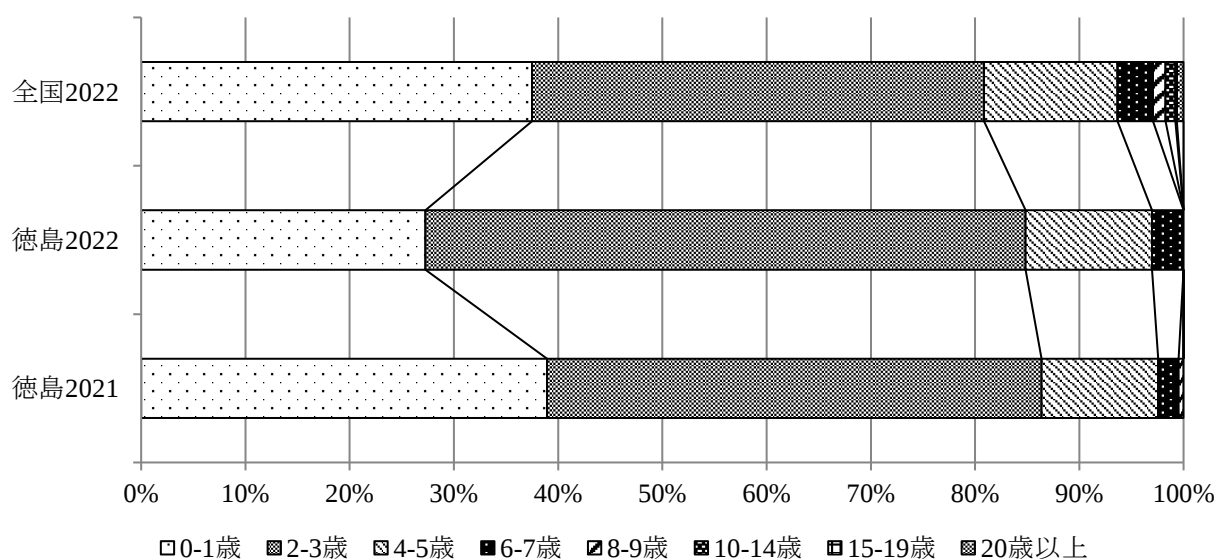
年間報告数は66件と、前年(411件)より大きく減少し、調査開始以降、最も少なかった。本疾患は、手足口病とともに主に乳幼児の間で流行する夏期の代表的な感染症である。本年は目立った流行はなく、報告数は低値(0.00~0.43/定点)で推移し、全国平均と比較しても少なかった。

年齢層別報告数では、0~1歳 27.27%、2~3歳 57.58%、4~5歳 12.12%、6~7歳 3.03%、8歳以上 0%であり、5歳以下の乳幼児が約97%を占めた。

【ヘルパンギーナの週別患者報告状況】



【ヘルパンギーナの年齢層別報告数】

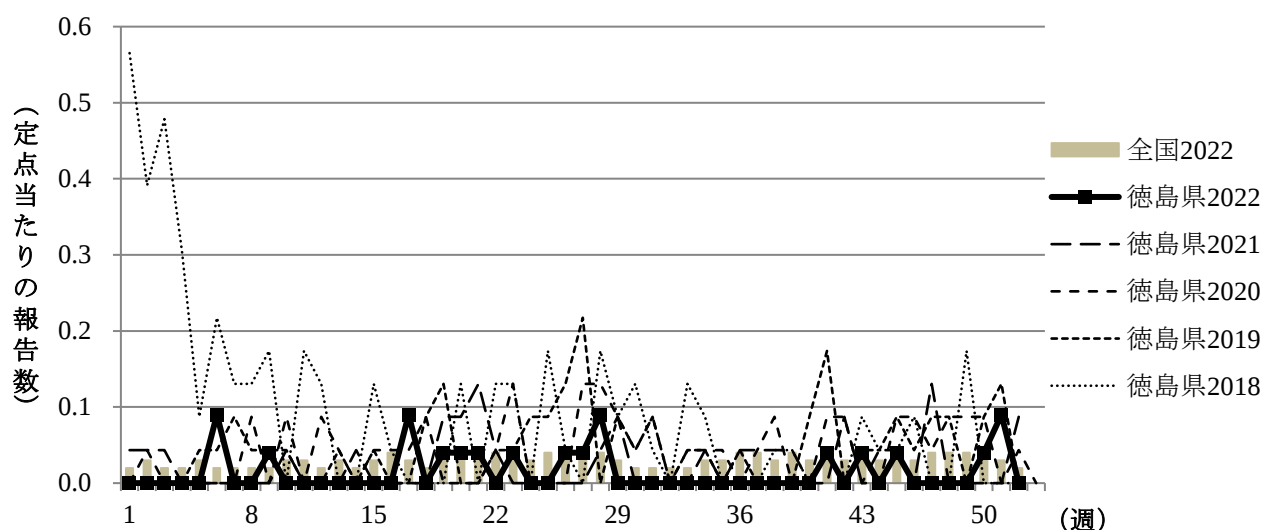


## ⑪ 流行性耳下腺炎

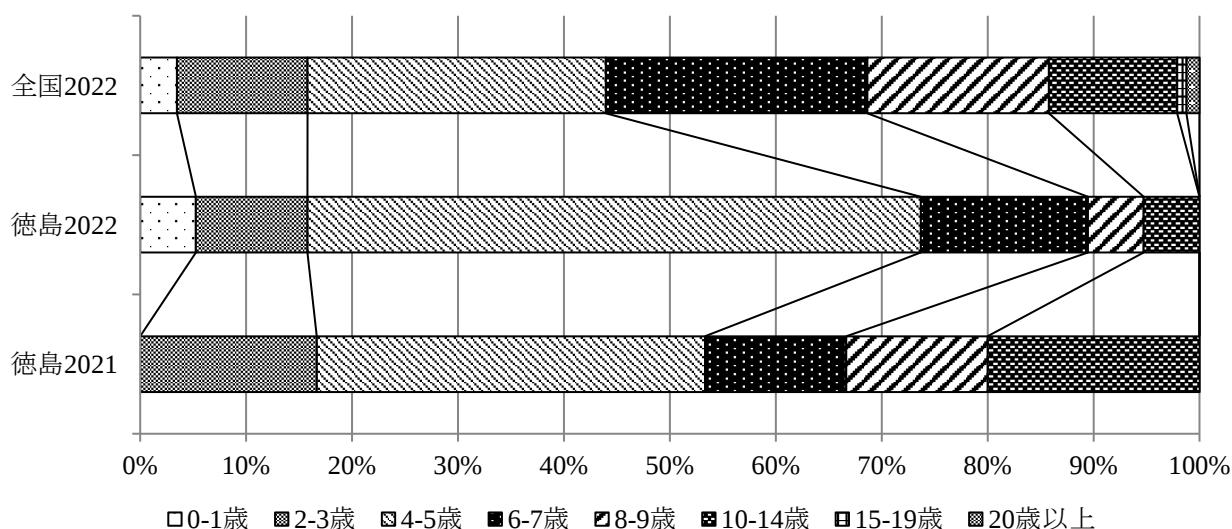
本年は流行が見られず、年間報告数は19件と、過去5年間で最も少なかった前年（30件）より減少し、年間を通じて低水準（0.00～0.09件／定点）で推移した。本疾患は年間を通して発生するが、晩冬から春にかけて報告数が増加するとされる。また、過去10年間では2016～2017年に大きな流行があり、数年おきに大きな流行が見られている。

年齢層別報告数は、0～1歳 5.26%、2～3歳 10.53%、4～5歳 57.89%、6～7歳 15.80%、8～9歳 5.26%、10歳以上 5.26%であり、4～7歳が約74%を占めた。

【流行性耳下腺炎の週別患者報告状況】



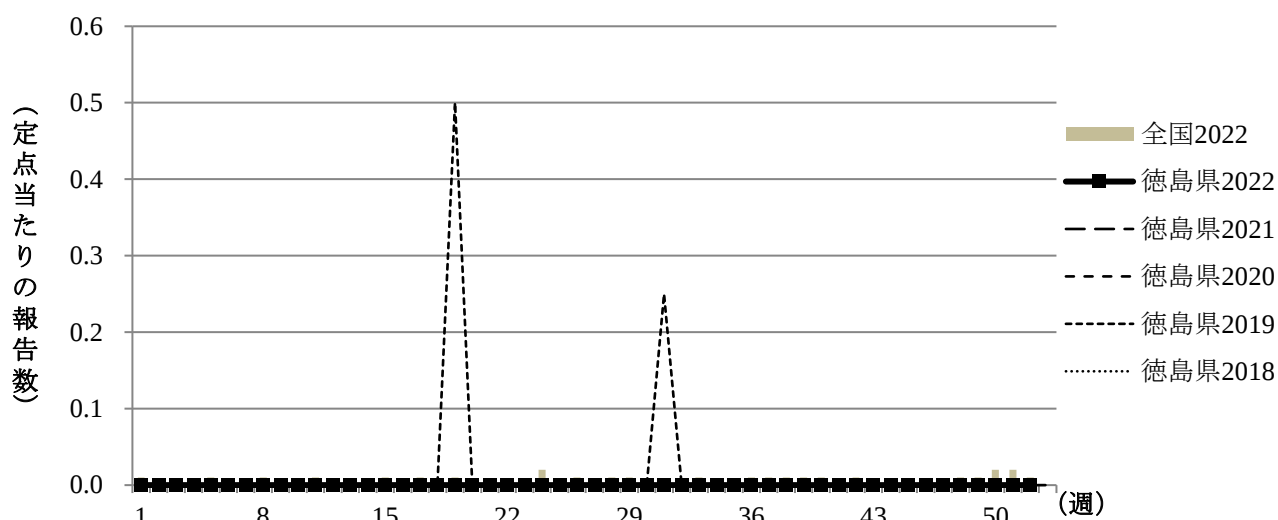
【流行性耳下腺炎の年齢層別報告数】



## ⑫ 急性出血性結膜炎

本年は報告がなかった。過去5年間では2019年（3件）のみ報告が確認された。本疾患は局地的に流行することがあるが、流行のない年は季節性も見られず、報告数は低いまま微増微減を繰り返すとされている。

【急性出血性結膜炎の週別患者報告状況】

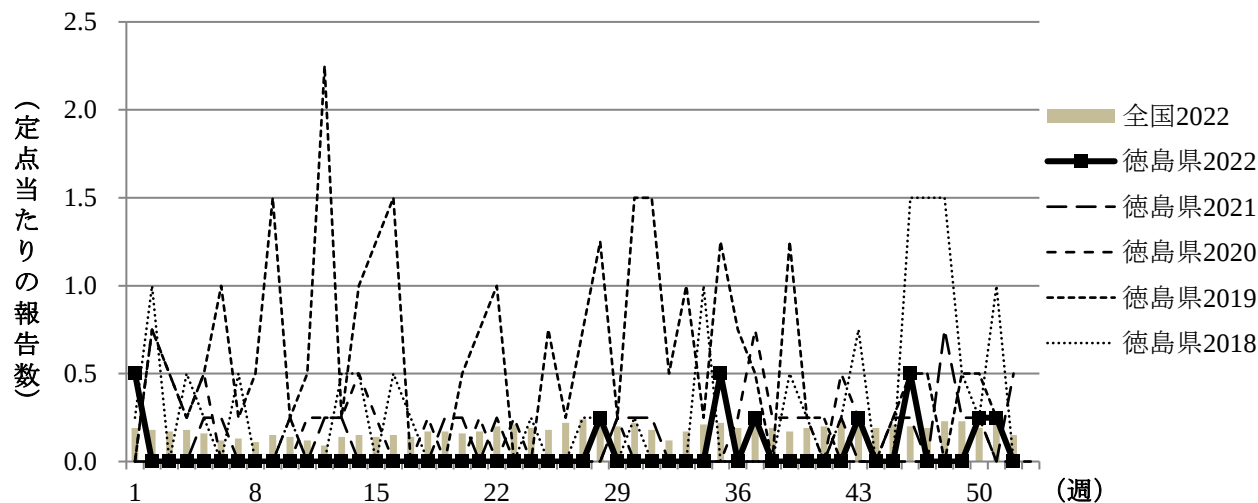


## ⑬ 流行性角結膜炎

年間報告数は11件と前年（21件）より減少し、過去5年間では最も少なかった。県内では2019年に年間117件報告されたが、その後は低値で推移している。

年齢層別報告数は、20歳未満0%、20歳代18.18%、30歳代36.36%、40歳代18.18%、50歳代18.18%、60歳以上9.10%と、20～50歳代の年代層が多かった。

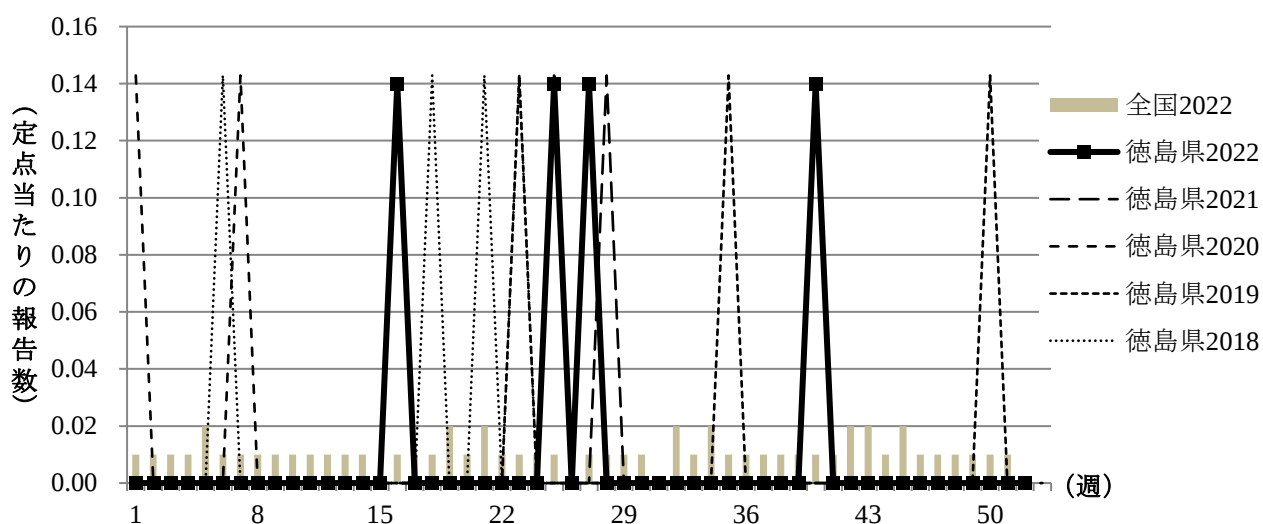
【流行性角結膜炎の週別患者報告状況】



⑭ 細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く）

年間報告数は4件で、年齢層別報告は1歳未満1件、50歳代1件、70歳代2件であった。前年は1件で、過去5年間では、毎年1～4件で推移している。

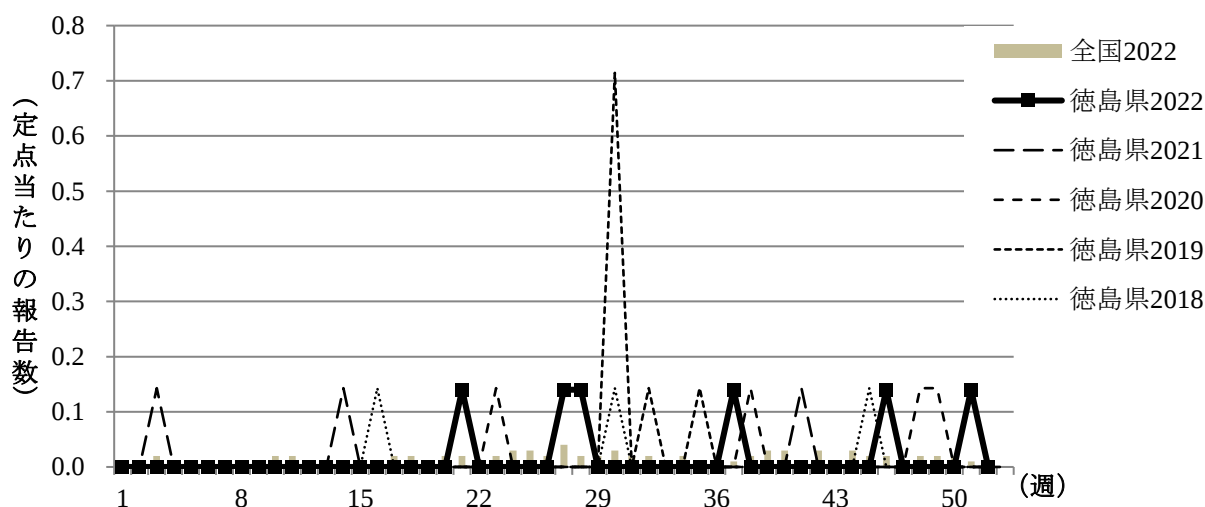
【細菌性髄膜炎の週別患者報告状況】



⑮ 無菌性髄膜炎

年間報告数は6件であった。前年は3件で、過去5年間では、毎年2～7件で推移している。年齢層別報告数は10歳代1件、20歳代2件、50歳代1件、70歳代2件であった。

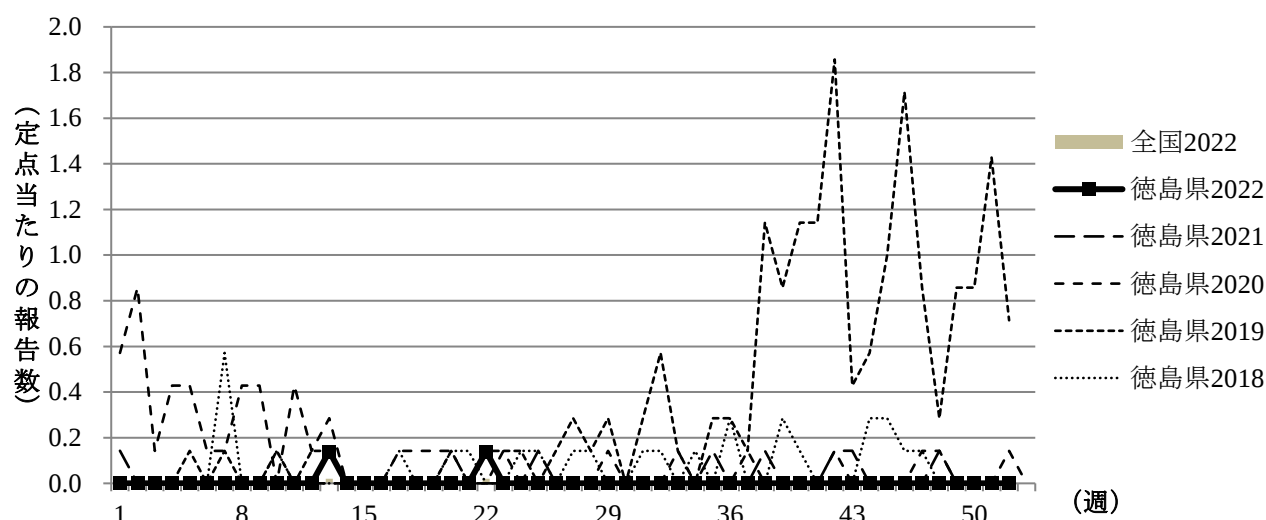
【無菌性髄膜炎の週別患者報告状況】



⑩ マイコプラズマ肺炎

年間報告数は2件と、前年（7件）より減少した。本疾患は、年間を通して発生するが、秋から春にかけてやや多くなるとされる。2019年から2020年に流行が見られたが、前年に続き、本年は目立ったピークはなく低水準（0.00～0.14件／定点）で推移した。年齢層別報告数は、10歳代1件、70歳代1件であった。

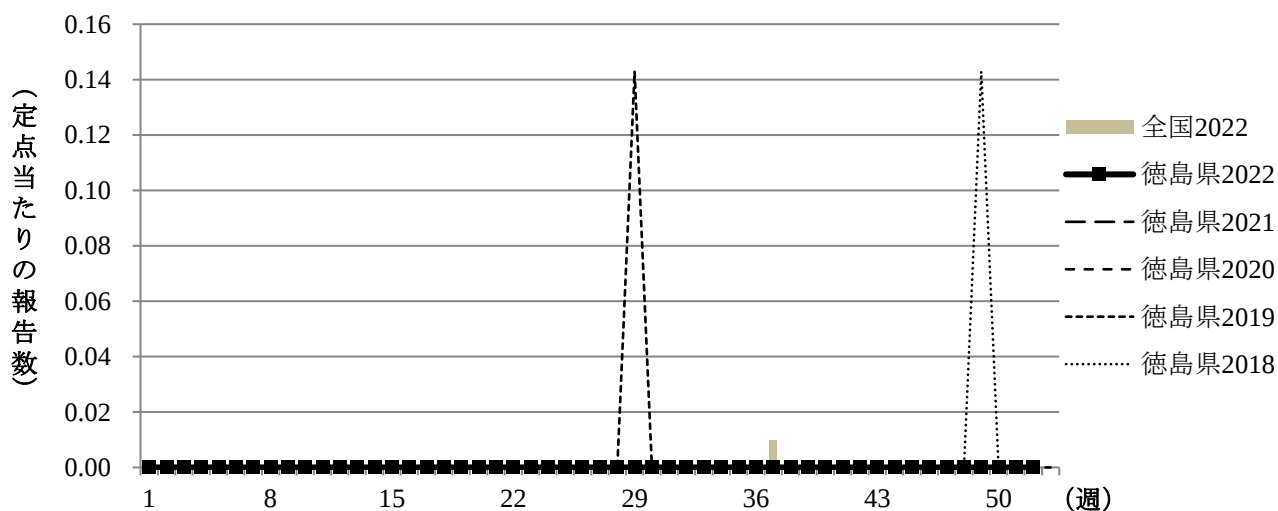
【マイコプラズマ肺炎の週別患者報告状況】



⑪ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

本年は報告がなかった。過去5年間では、毎年0～1件で推移している。

【クラミジア肺炎の週別患者報告状況】



⑱ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

本年は報告がなかった。過去5年間では2019年の8件が最も多かった。

【感染性胃腸炎（ロタウイルス）の週別患者報告状況】

